



資料 3

仙台市における自転車利用を取り巻く状況

仙台市の地域特性

- (1) 地形的な特徴・気候特性
- (2) 人口の推移
- (3) 自転車の利用状況
- (4) 健康習慣
- (5) 観光資源
- (6) 観光客の動向
- (7) 環境に関する現状

仙台市の地域特性

(1) 地形的な特徴・気候特性①

- ・東北地方のほぼ中央に位置し、市域の西側は奥羽山脈、東は太平洋に囲まれている。
- ・市街地は、都心の北方から西方にかけては緩やかな丘陵地であるが、南方から東方にかけては平野が広がっており、比較的平坦な地形となっている。
- ・都心部は主要な地区が概ね直径3km程度の範囲に収まり、碁盤の目のように幹線道路が整備されているため、自転車が利用しやすい街である。

■地勢図 Topography

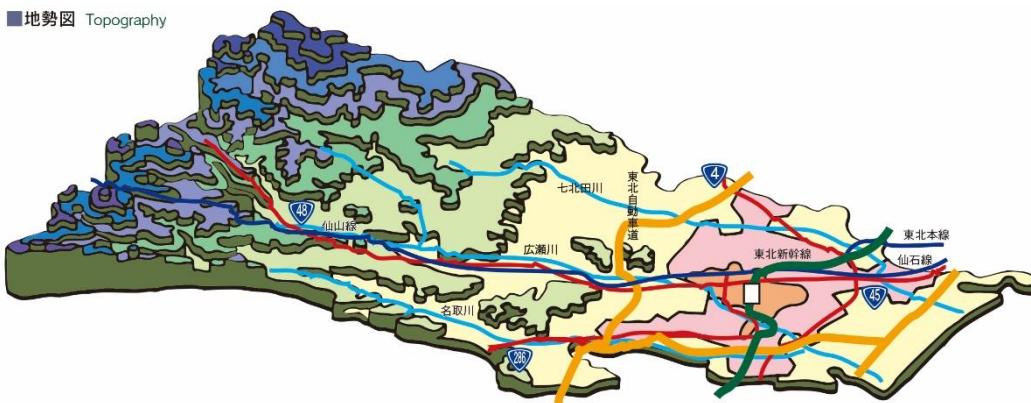


図1-1 仙台市の地形

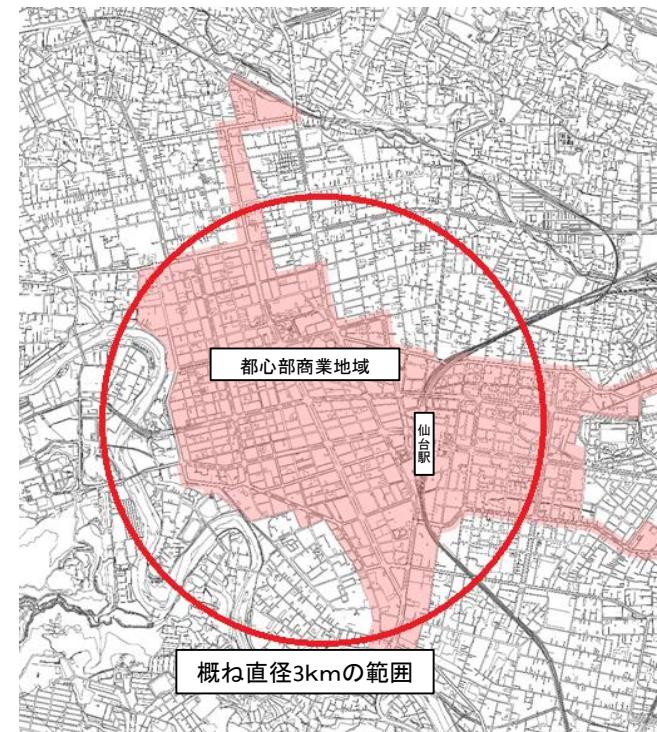


図1-2 市街地の状況
(仙台市都市計画基本図を基に作成)

仙台市の地域特性

(1) 地形的な特徴・気候特性②

- 比較的高緯度に位置するが寒暖の差が少なく、積雪が比較的少ない。
- 年間降水量は1,200mm程度と全国の主要都市と比較して少ない。
- 年間を通じ、自転車を利用しやすい気候といえる。

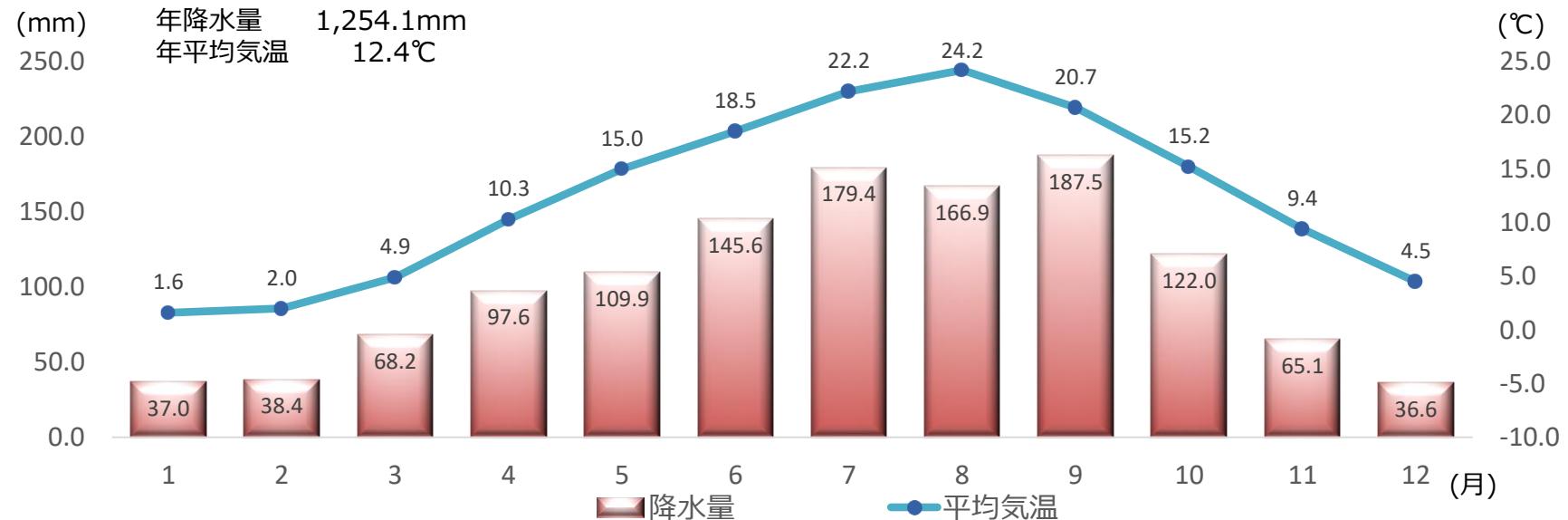


図1-3 仙台市の平均気温と降水量（1981年～2010年の平均値）
(仙台市統計書「平成30年版」より作成)

都市名	平均気温 (℃)	年間降水量 (mm)
札幌	8.9	1,106.5
仙台	12.4	1,254.1
東京	16.3	1,528.8
名古屋	15.8	1,535.3

都市名	平均気温 (℃)	年間降水量 (mm)
大阪	16.9	1,279.0
広島	16.3	1,537.6
福岡	17.0	1,612.3

表1-1 各都市の平均気温・降水量（1981年～2010年の平均値）
(気象庁統計データより作成)

仙台市の地域特性

(2) 人口の推移

- 本市の総人口は、現在109万人（2019年8月推計）で、近年においても人口流入などにより増加している。
- 将来人口は2020年頃にピークを迎える、その後緩やかに減少し、2045年頃まで100万人を維持するものの高齢化は着実に進み、2045年には65歳以上の高齢者の割合は約36%となる見込み。
- 外国人住民は増加傾向にある。

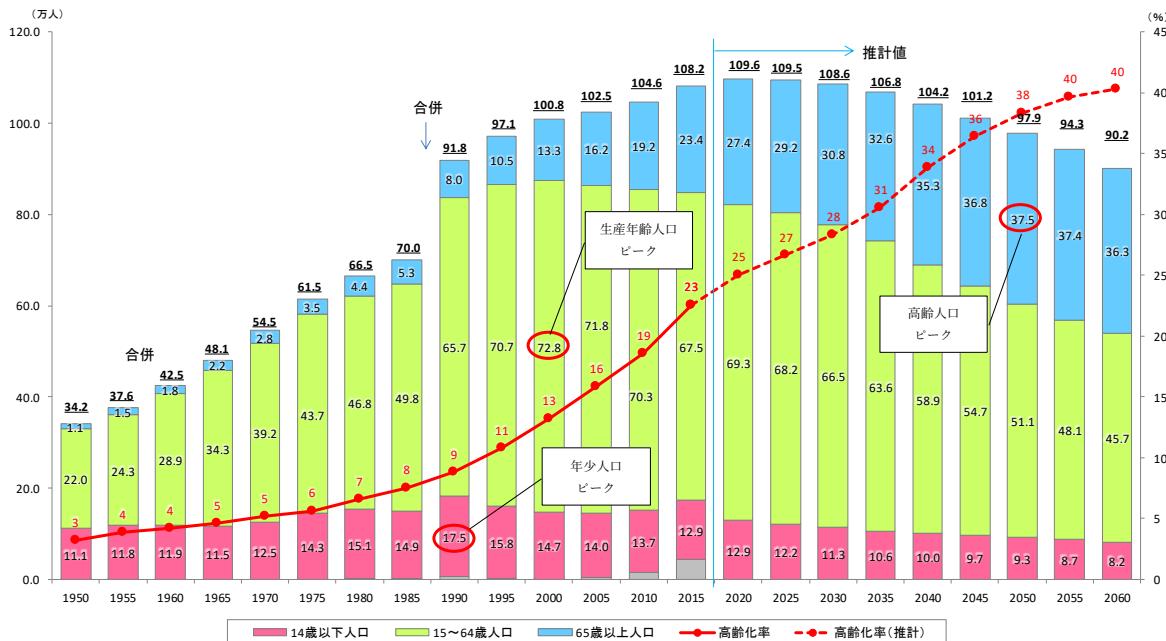


図2-1 仙台市の人団体の推移と見込み（1950年～2060年）

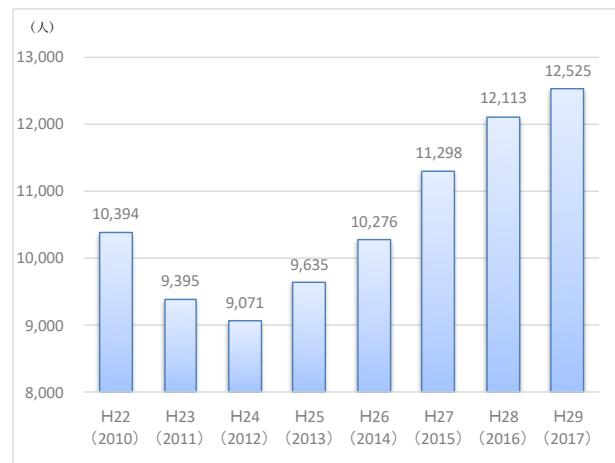


図2-2 仙台市の外国人住民の推移（2010年～2017年）

仙台市の地域特性

(3) 自転車の利用状況①

- 仙台市において利用される主要な交通手段のうち、自転車の利用率は昭和57年以降ほぼ横ばいで推移している。
- 平日と休日で比較すると、平日の方が利用率が高い状況が見られる。
- 年齢階層別の自転車の利用率は、15～24歳が19%と最も高く、年齢が上がるごとに低下している。

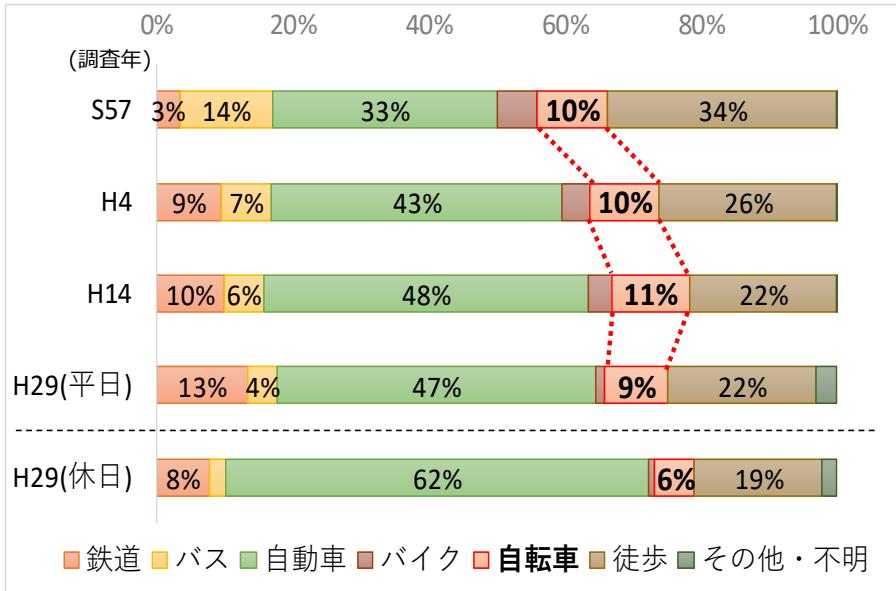


図3-1 仙台市の交通手段利用率の変化

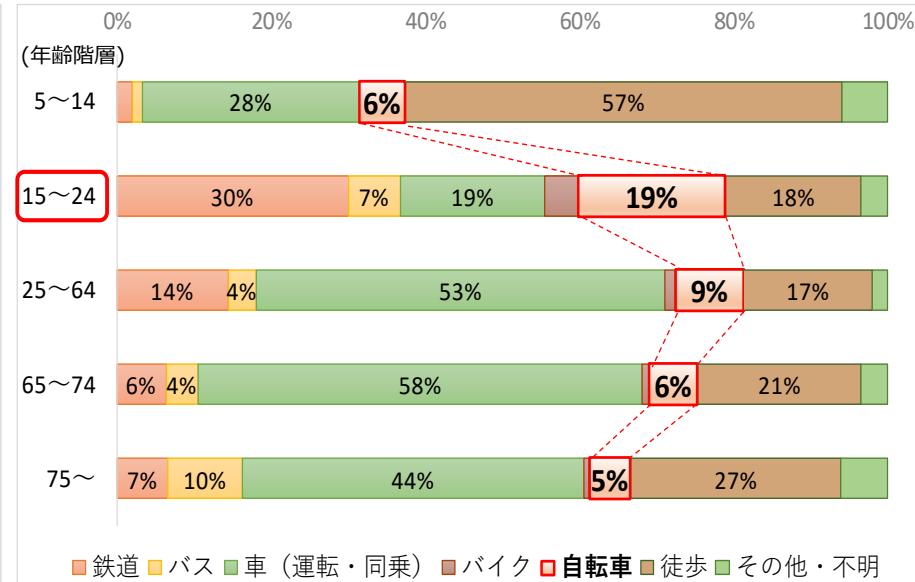


図3-2 年齢階層別の交通手段利用率(H29(平日))

仙台市の地域特性

(3) 自転車の利用状況②

- 仙台市において、鉄道端末交通手段（※）としての自転車の利用率は4.5%であった。
- 本市において自転車は公共交通機関（主に鉄道）を補完する主要な端末交通手段の一つとなっている。

※鉄道端末交通手段：出発地から鉄道駅、または鉄道駅から目的地までに利用した主な交通手段

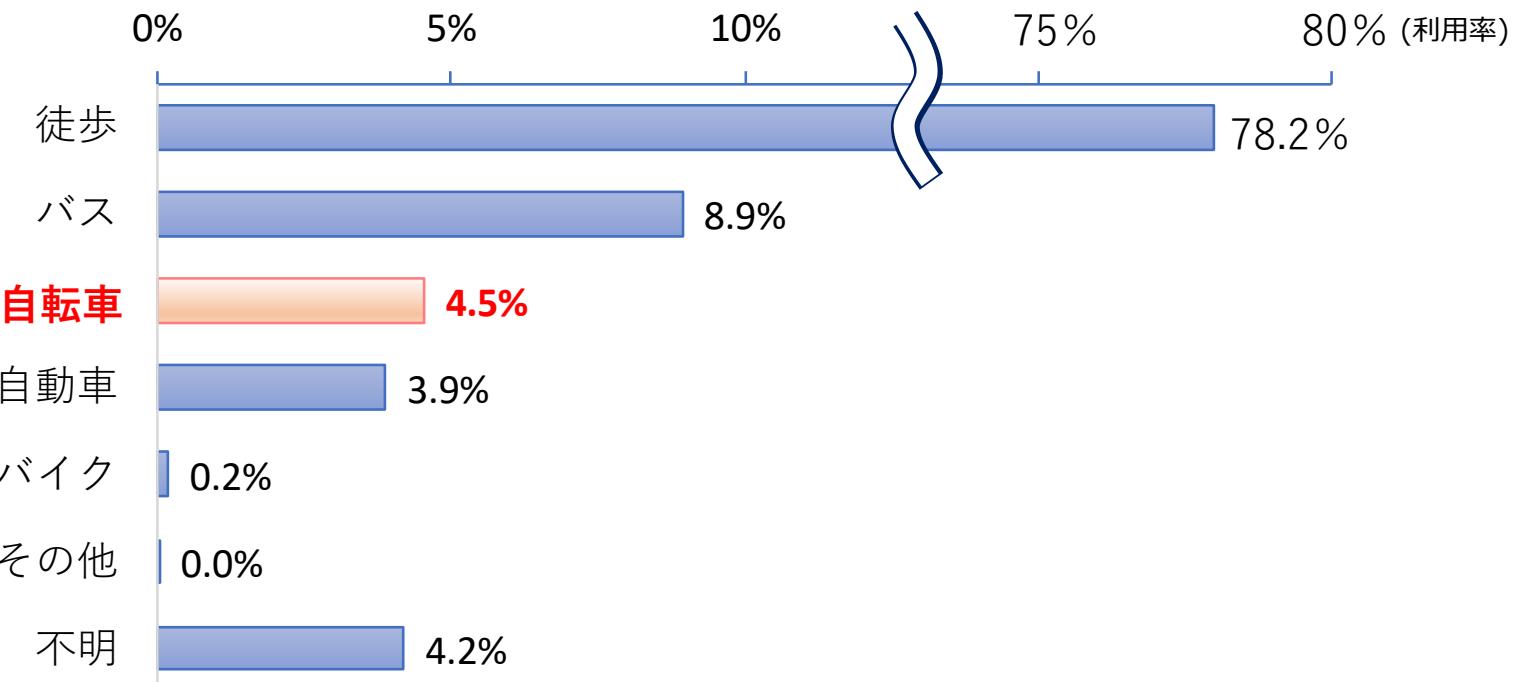


図3-3 仙台市の「鉄道」の端末交通手段利用率（H29（平日））

（第5回仙台都市圏パーソントリップ調査より作成）

仙台市の地域特性

(3) 自転車の利用状況③

- 自転車を週1回以上利用する人の割合はほぼ横ばいで推移しているが、令和元年度ではやや増加している。

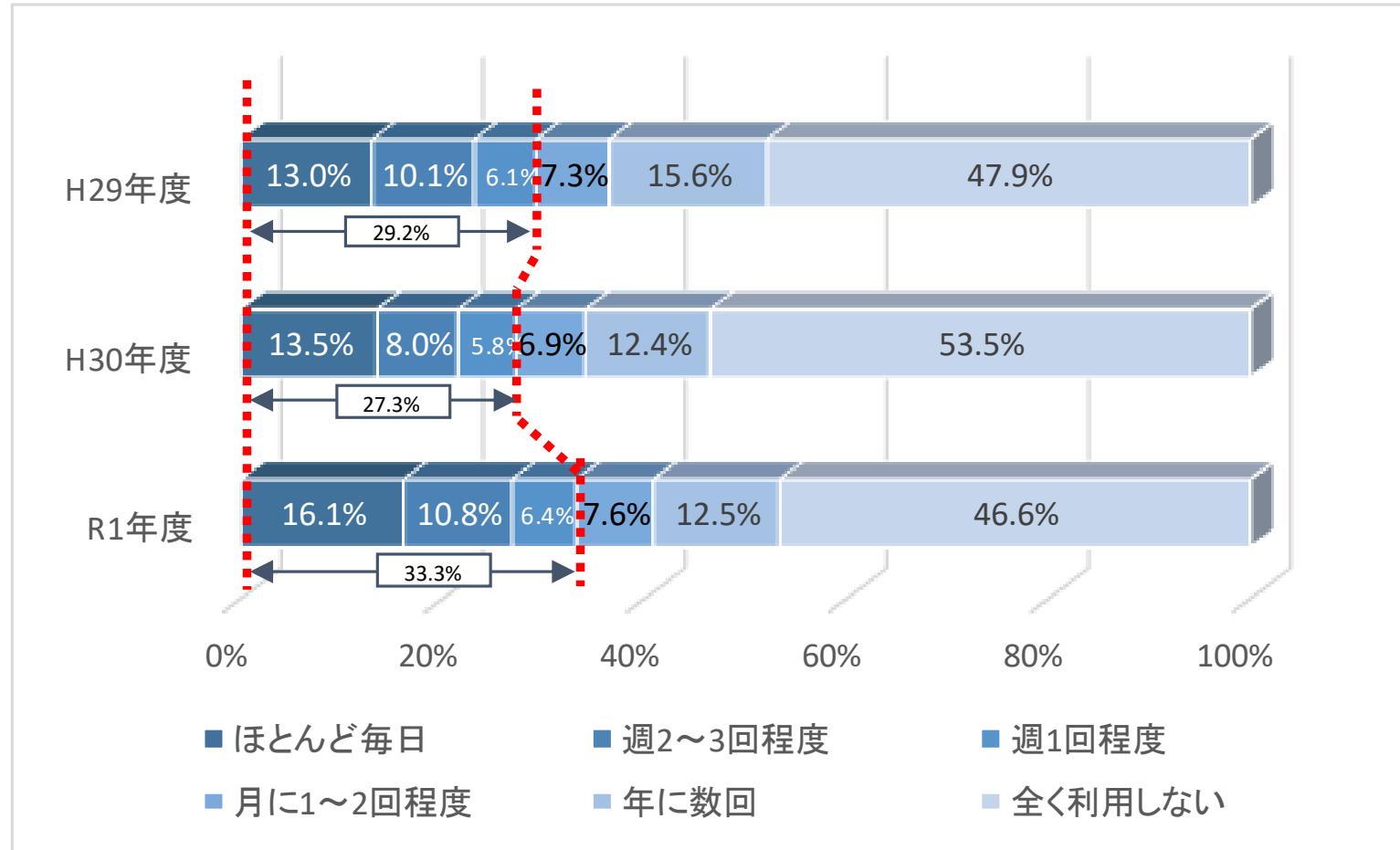


図4-1 自転車利用頻度の変化
(令和元年度自転車に関するWEBアンケート調査より作成)

仙台市の地域特性

(3) 自転車の利用状況④

- 自転車を利用する目的は「買い物」が最も多く、続いて「通勤・通学」、「娯楽・レジャー」の順となっている。
- 自転車を利用する理由は、「短時間で目的地に到着できるから」が最も多く、続いて「コストがかからないから」、「健康に良いから」の順となっている。

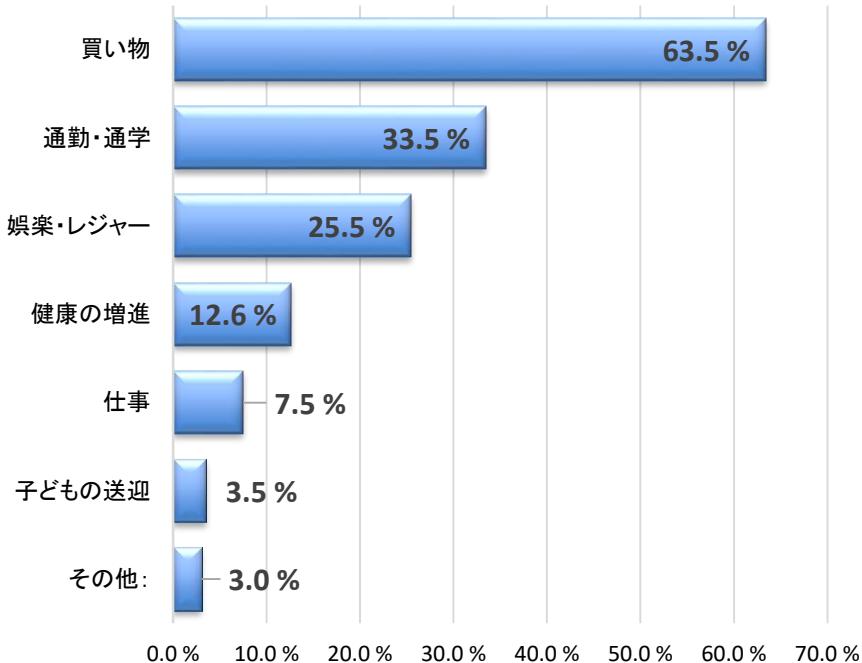


図4－2 自転車を利用する目的（複数回答）

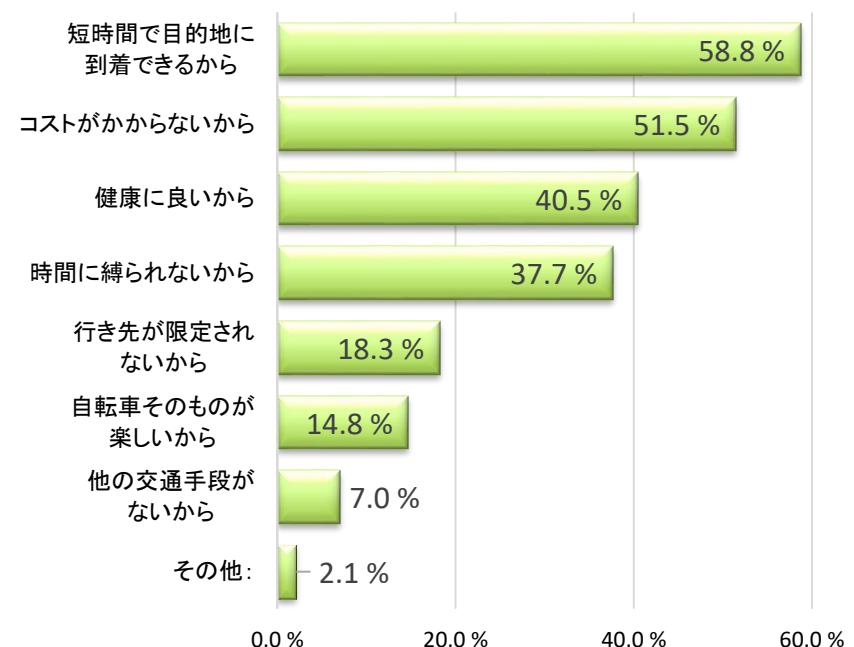


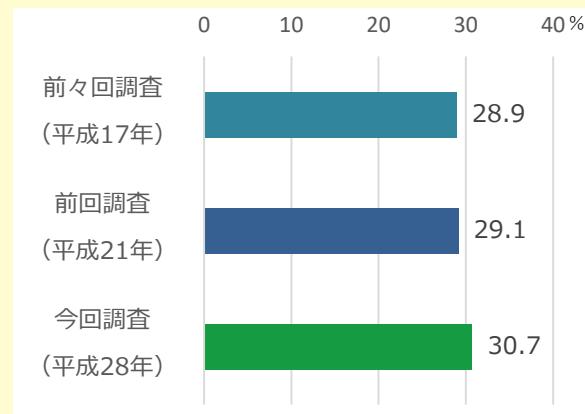
図4－3 自転車を利用する理由（複数回答）

仙台市の地域特性

(4) 健康習慣

- 本市の20～60歳代男性の肥満者の割合は前回（平成21年）、前々回（平成17年）調査と比較してほぼ横ばいであり、改善していない。
- 本市の30～40歳代の1日の平均歩数が減少し、運動習慣者の割合が低い状況。

20～60歳代男性の肥満者の割合



歩数の状況(年代別、平成21年調査との比較)

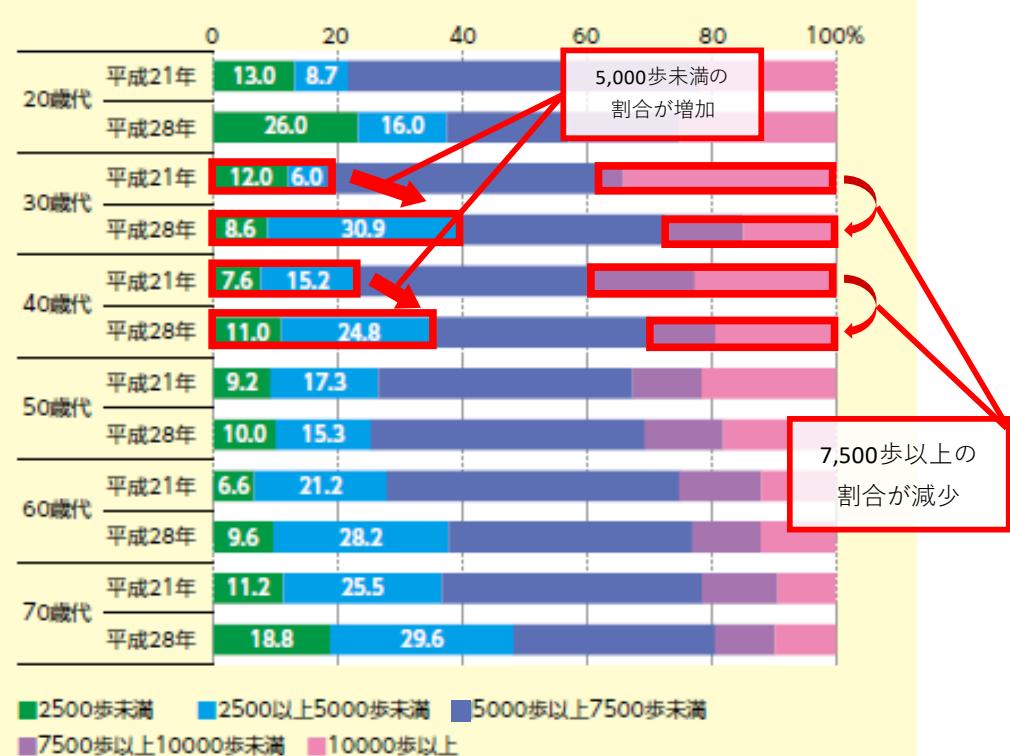


図5 20～60歳代男性の肥満者の割合と歩数の状況（第2期いきいき市民健康プラン後期計画より作成（一部抜粋））

仙台市の地域特性

(5) 観光資源

- ・市内中心部には史跡・寺社・ミュージアム等の観光施設が点在。
- ・西部地域には2か所の温泉地域があるほか、泉ヶ岳等の豊かな自然に触れながらサイクリングを楽しむコンテンツが創出されている。
- ・東部地域には、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構 仙台市立荒浜小学校といった震災復興関連施設のほか、沿岸部のサイクリングロード等が存在する。



AKIU NINJA RIDE (出典：アキウ舍 H P)



県道仙台亘理自転車道線 (出典：建設局)



仙台藩祖伊達政宗公靈廟 瑞鳳殿
(出典：公益財団法人 瑞鳳殿)



震災遺構 仙台市立荒浜小学校
(出典：防災・環境都市仙台 H P)

仙台市の地域特性

(6) 観光客の動向

- 観光客入込数は、東日本大震災後の平成23年度に大きく減少したが、その後増加傾向となっている。
- 観光客の市内／近郊交通での移動手段（二次交通）は「歩行」が最多、続いて「マイカー」、「鉄道」、「路線バス」の順となっている。「自転車」の割合は0.7%と低い。

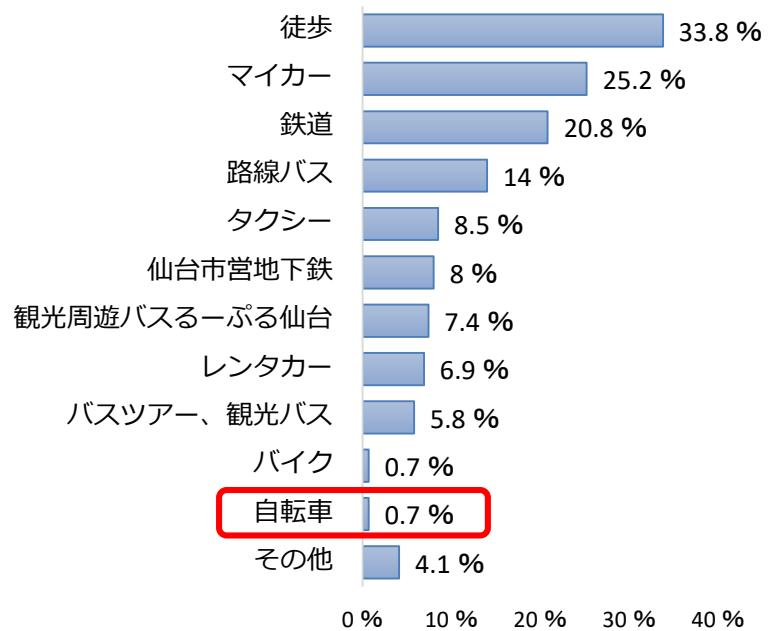
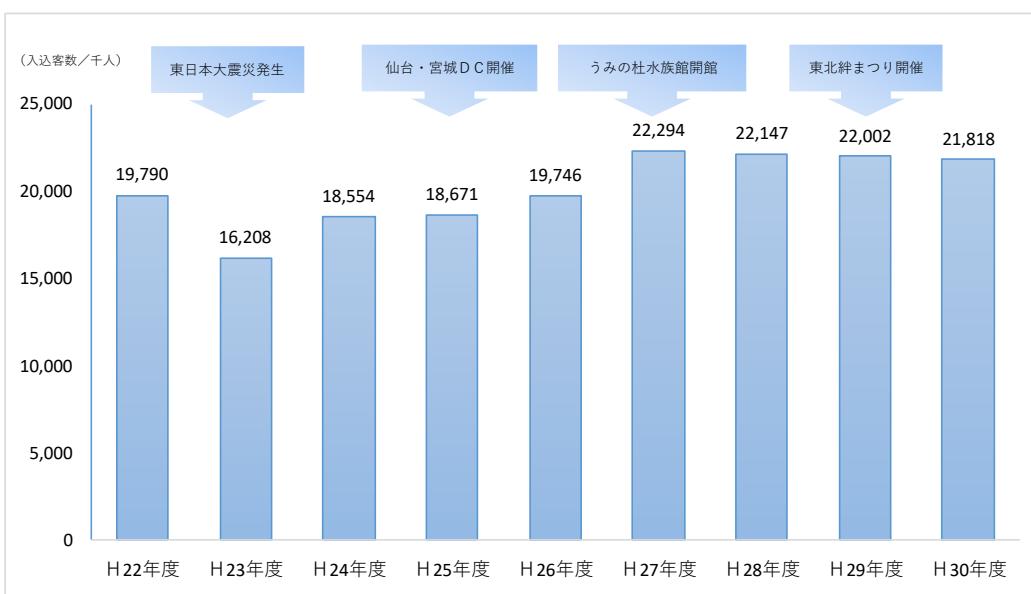


図7-1 仙台市の入込客数の推移
(仙台市HP「仙台市の入込客数の推移」より作成)

図7-2 市内／近郊での移動手段（二次交通）
(平成27年度仙台市観光客動態調査より作成)

仙台市の地域特性

（7）環境に関する現状

- ・仙台市域の温室効果ガスの排出量は、近年減少傾向にあるものの、震災前より高い水準で推移している。
- ・仙台市では、令和2年度における温室効果ガス排出量を平成22年度（2010年度）比で0.8%以上削減【目標値：764万t-CO₂以下】を目標とし、公共交通や自転車の利用促進による環境負荷低減に取り組んでいる。

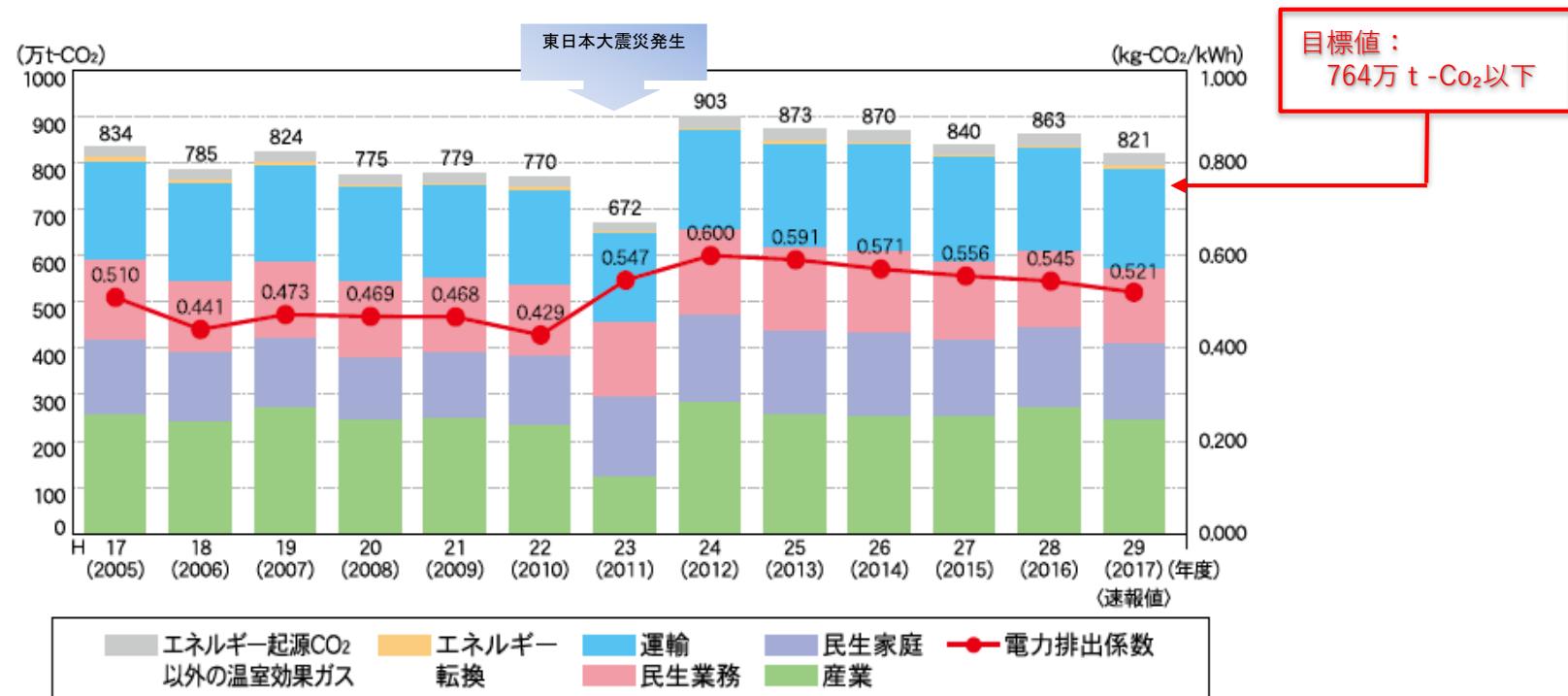


図8 仙台市域の温室効果ガス排出量の推移

(仙台市の環境 杜の都環境プラン (仙台市環境基本計画) 平成30年度実績報告書より抜粋)